

広がれ！出会いの場

みんなの食堂「りんごのキッチン」

今年三月から、ワーカーズコープの木の木が始めたみんなの食堂「りんごのキッチン」は、毎月みんなで楽しく食事する場所を提供するもので、九月十日(日)には木幡東公民館で開催されました。

ワーカーズコープの小白井加代子さん(左)と仲島友紀子さん(右)にお話を聞きました。



●みんなの食堂「りんごのキッチン」を始めたきっかけは？
各地で「子ども食堂」が開催され、新聞でも取り上げられていますが、この地域にはひとり暮らしの高齢者も多いので、大人も子どもも集まって、みんなで食事ができる場所を提供することから始めました。まずは「出会いの場」をつくる

ことに意味があると考えています。

「りんごのキッチン」は三月から毎月一回、夏休みの八月を除いて開催しており、今回で六回目を迎えました。毎回五十人くらいの方が来てくれています。

●大人二〇〇円、子ども一〇〇円の食事代でのやりくりは？
夏祭りから手伝ってもらっている矢板高校生、ボランティア活動に協力してくれている矢板中学校生、創年大学ふらぶらクラブのみなさん、一般の方で実行委員会をつくり、献立を決めたり、食堂を運営していたいでいます。

食材は、生きがいクラブ(県営住



宅のそばの畑で野菜を作っている)や近隣の農家の方から野菜を、また、商店の方からは使えない食材を提供していただいています。

●これからの構想と課題
ほかの公民館



「出会いの場」があることを知ってもらうためにいろいろなところにチラシを配っていますが、周辺の民生委員さんにも積極的に実行委員会に入っていたければなど思っています。

次回の「りんごのキッチン」は十月十五日(日)午前十一時から、木幡東公民館で開催予定です。ぜひお越しください！



どなたでもみんなと食事をしながら楽しく交流できる場所です！

取材を終えて

ひとり暮らしの高齢者の「孤食」や子どもの「個食」が近年問題になっているようです。しかし、私の家庭では家族みんなで食卓を囲むのが当たり前なので、実感がありませんでした。

取材したこの日は、親子連れ、高齢者、若い人の姿も見られ、にぎやかでした。献立は五目御飯、みそ汁、野菜サラダ、カボチャ煮のほかに大根のきんぴらやお漬物、かき氷など。サラダのドレッシングは、矢板高校生に当日、突然頼んでつくってもらったとのこと、とてもおいしかったです。

お話を伺ったところ、食材の確保が課題になっているそうです。野菜や余った食材などありましたら、ぜひ旧長井小学校のりんごの木に届けてください。よろしくお願います。
(R・K)